

**令和7年6月第2回 木島平村議会定例会**  
**《第3日目 令和7年6月6日 午前10時00分 開議》**

**議長（勝山 正）**

おはようございます。

（出席者全員「おはようございます。」）

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

日程第1、一般質問を行います。

一般質問の順序については、議会運営委員会において抽選のとおりです。

1番、関達夫議員。

（「はい、議長。1番。」の声あり）

（1番 関 達夫 議員 登壇）

**1. 木島平型農業の推進**

**1番 関 達夫 議員**

それでは、議長から発言を許されましたので、令和7年6月の議会定例会行政事務一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

1項目目ではありますが、木島平村型の農業の推進と名前を付けました。木島平型教育があるわけですので、農業もあってもいいはずだということで、このようなことを考えました。

1番目ではありますが、今、米の値段が大変注目されております。連日テレビのニュースに出てくるわけではありますが、一旦農家の手を離れた米は、国が売り出した備蓄米は流通が複雑で、どこかに滞留しているようであります。今の高い値段で取引されておりますけれども、農家の生産者には直接の利益は回ってきてはおりません。今、改めて米の生産についてどうするか。村長も今年は村の再生協での目安値に囚われないというふうなことを都度申されておりますけれども。

1つ目ではありますが、国・県の農業再生協議会の示す米の生産量の目安値、次年度はどんなふうにお考えになっておられるかお聞きしたいと思います。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

それでは、今、大変騒がれている米の価格ではありますが、令和の米騒動と言われておりますが、米不足と価格高騰の要因がどこにあるか。インバウンドの需要の増大、異常気象による品質の低下と収穫量の低下、水稻農家の高齢化と後継者不足、生産・流通コストの上昇など、様々な要因が重なったと思っております。

平成30年産から減反政策が廃止をされまして、生産者自らの判断で需要に応じた生産ができるようになりましたが、急激な増産によるコメ余り、米価の下落を防ぐため、国が生産量の目安値を示し、この目安値以内となるような協力を求める現在の制度が続いております。

この目安値について次年度どう考えるかというご質問ではありますが、現在の米不足と米の価格の高止まりが続く中で、国が現行の制度を継続するのか、その動向がなかなかつかめないところでありますが、昨今の情報では制度が大幅に変わってくるんだろうと思っております。仮に現行の制度が今後も継続されたとした場合、あくまでも生産数量の目安ということで、各農家についてはそれぞれ経営判断に基づいて生産をしていただきたいと思いますと考えております。

## 議長（勝山 正）

関達夫議員。

### 1番 関 達夫 議員

大変に、農林省を始め騒がしくなっているところでございますけれども、村長言われるとおり、次年度についてはわからないと、これは正解かなと思いますが、そのようなことで次の質問させていただきますけれども、今言った目安値等々が変更になってどうなるかわかりませんが、仮に生産量を増やせと、こんなようなニュースもだいぶ流れております。生産量が増えると、作っている側にしてみると、どうやって売るのがかなということ、販路が大変大事になるかなと思います。

とにかくうまい米を生産し競争に勝たなくてはならないと、このような民主主義の経済でございますけれども、そういった場合の対策については何かお考えになられるかどうか、お聞きしたいと思います。

## 議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

### 産業企画室長（湯本幸伸）

米の販路についてのご質問でございます。

村では、全国有数のうまい米の産地として積極的なPRを進めております。「村長の太鼓判」を始め、有利販売に向けたブランド化を推進しております。

販路については、従前からのJAを経由した販売のほか、村内農家さんは独自に販路を開拓されており、その流通経路は多岐にわたっていらっしゃいます。米の販路は独特のものがあるかと思えます。行政が主導して販路開拓というのは大変難しいなと認識をしておりますが、これまでも村と生産者団体、生産者の農家さんと一緒になってPRやイベントを行ったりというような取組を進めております。

そのような中、最近では、これまでの美味しい米づくりとブランド化、米不足もあります。米の販売業者から生産団体の方へ直接の引き合いなどがあるということもございます。村が関わる範囲というのは限られていると思えますが、今後、農家や生産団体を支援して、販路の拡大に取り組みたいと考えております。また、美味しいお米は、外からの客観的な評価が大変重要かと思っております。そのため、今年の米コンクール品評会等により多くの農家さんが出品いただけるように、出品料の補助を新たに今年度から行うこととしております。

いずれにいたしましても、県の農業農村支援センター、JAなどと連携しまして、農家の皆様と一緒にこれまで取り組んできた米栽培技術の研究であるとか、米のブランド化への取組を一層進める必要があると考えております。

## 議長（勝山 正）

関達夫議員。

### 1番 関 議員

大変難しい問題かなと思います。そうは申しませんが、お話になったとおり、美味しい木島平村のお米であります。私は、寿司米だ寿司米だと言ったら寿司米じゃないんだよということで、あんまり人気がないというふうなお話もあるというようなことも聞いていますが、昔は、寿司米というような呼ばれ方もしたものでございます。

それで、村ではこの販路対策等々で、あるいはうまい米づくりのために、それぞれブランド化の推進事業等々取り組んでおられるわけなんですけれども、予算上では850万円ほど、さっき言われた米の品評会のコンクールの出品料の補助とか、そのような予算をされておりますけれども、これ

とプラス人ですけれども、そういったもののみますますのブランド化、「村長の太鼓判」もそうでありま  
すけれども、に向けて何か特段変わった対策というのはお考えになっておられるかどうか。お聞きし  
たいと思いますが、いかがでしょうか。

### 議長（勝山 正）

湯本産業企画室長。

### 産業企画室長（湯本幸伸）

これまで取り組んできた取組に加えて、新たな取組があるかというご質問でございます。

村の方では、先ほど申しました、今年は米コンクールへの出品料の補助というのがございます。

また、現在取り組んでいるものとして、直接木島平の米をたくさん買いたいというような販売店か  
らの要請もあつたりしますので、村の方で農家所得の向上が一番だと思っておりますので、こういっ  
たものに応えられる、村としてできることは何かというようなことを、今、取り組んでおります。

また、昨年も行いましたが、銀座NAGANOでの生産者の直接の顔が見えるPRでございます。来場され  
た皆さんは、木島平のことを初めて知ったというような方がたくさんいらっしゃいましたけれども、  
生産者が直接そこで顔の見えるPRをすることで、効果的なプロモーションができたとも聞いておりま  
す。先ほど申しました米コンクールの話もございますが、会場で直接、木島平の米を買いたいんだと  
いうことで農家への声かけもあつたということも聞いております。

そういったことで、ぜひそういったいろいろな場所へも農家さんが出ていけるような環境を作られ  
ばなということも考えております。

よろしく願いいたします。

### 議長（勝山 正）

関達夫議員。

### 1番 関 達夫 議員

それでは、③の質問とさせていただきますけれども、今盛んに言われております米の適正価格とい  
うことを言われておりますけれども、何をもって適正かということをいろいろお考えはあろうかと思  
いますけれども、いずれにしても、農家は安定した再生産可能な所得が欲しいわけでございます。

村長、このようなことについて、何かお考えがあつたら教えていただきたいと思ひます。

### 議長（勝山 正）

日碁村長。

### 村長（日碁正博）

先ほど申し上げましたが、消費者にとってみれば安い方がいいというのは当然の考え方でございま  
すが、農機具とか肥料など生産コストが増大して生産者にとっては大きな負担になっているという状  
況が続いています。米価の高騰は歓迎できる部分もありますが、急激な米の価格の高騰は消費者の米  
離れ、それから米の需要を引き下げる要因にもなる。結果として、米余り、米の価格の下落というよ  
うな悪循環になってしまう、そんなことも考えられます。商品の品質に応じて消費者も生産者もお互  
いが納得できる価格が、適正価格ということになろうかと思ひます。

木島平ではおいしい米どころとして、県内では一定の評価をいただけるようになりましたが、まだ  
まだ知名度が低い、そんなことで、生産者には引き続き美味しい米づくりに励んでいただき、村は米  
ブランドの確立に向けて、プロモーションにより一層取り組んでまいりたいと考えております。

## 議長（勝山 正）

関達夫議員。

### 1番 関 達夫 議員

このことは、なかなかこれだということはできないかなと思いますけれども、村の米づくりのためにますますのご尽力をいただきたいと私は思います。

それでは次に移らせていただきますけれども、2番目になります。

村は、改正の農業基盤強化促進法で付けられました地域計画を策定されました。各農地、10年後誰が使用するのか、取りまとめでありますけれども、平坦部は担い手への農地集積、利用はしやすいわけでございますけれども、中山間の水田、畑をどうするかが重要なと思います。

農業委員会の皆さんと議会との意見交換会を開催したわけでございますけれども、その場合において、土地の利用の悪さについて苦労しているという話をお聞きしました。また、加えて人手不足あるいは農機具の調達も大変なようでございます。農業される方々の話を聞きながら、中山間地農業、労力確保の策も考え、地域計画をどう生かすかということが命題かなと思います。

それで1つ目でありますけれども、地域計画の、今回初めてでありますので、初集計では全国で後継者の定まらない農地は3割超だと新聞等にも出ております。当村はどのようなふうの評価されるかお伺いしたいと思います。

## 議長（勝山 正）

本山産業課長。

### 産業課長（本山 等）

地域計画に関するご質問をいただきました。

地域計画は、10年後を見据えた農地利用の未来設計図であり、農業従事者の高齢化や担い手不足が心配される中、誰がどのように農地を維持していくのかをまとめたものであります。当村の地域計画は、水田の中山間直接支払制度の協定集落をベースに、これに条件整備を行えば、担い手農家への集約が可能だと考えられる畑地も加えまして、村内12地区についてそれぞれ計画を定めたものであります。

議員ご質問の後継者が定まらない農地が全国で3割あり、村の状況はどう評価するのかとのご質問であります。本村の各地域計画において10年後の耕作者が設定されていない農地は、計画上の農地面積の約1割を占めております。今後、所有者、耕作者による農地利用の状況把握と、計画の見直しを定期的に行いまして、耕作者を確保するための方策を検討する必要があると考えております。

よろしく申し上げます。

## 議長（勝山 正）

関達夫議員。

### 1番 関 達夫 議員

地域計画では対象とされたようなところが、そういったような場所場所でございますので、今のところ10年後を見越すと、それなりにやり手がいるかなというふうなことかなと思っています。

そうは言いましても、周りを見回しますと、それぞれ荒れた農地等々がまだまだたくさんあるわけでございます。農業委員会でもそれなりの対策いろいろされていられるようでございますけれども、そういったところの農地をどういうふうにするかというような大変問題かなと思います。そういったところの農地等々を改めて、その農地と農業振興等を図るか、また、山間部での担い手、人材不足確保はいかに考えるか、2番目になりますけれどもお伺いしたいと思います。

**議長（勝山 正）**

本山産業課長。

**産業課長（本山 等）**

山間部での担い手不足、人手不足は本村に限らず、中山間地域にある自治体の共通の課題となっております。先ほど申し上げたとおり、今回策定した地域計画をもとに、所有者と耕作者が互いに現在の状況を共有し、議論を深め、必要に応じて農地中間管理機構など関係機関と連携して、担い手への農地集積を進め、効率的な農地の利用を図っていく必要がございます。

特に山間部につきましては、平坦地のような効率的な経営が難しいという課題もございますので、人材の確保と基盤整備の実施など課題解決に向け、土地所有者、耕作者、村や関係機関による話し合いを進め、実現可能な行動計画を定めて実行していく必要があると考えております。

よろしく申し上げます。

**議長（勝山 正）**

関達夫議員。

**1番 関 達夫 議員**

より一層、荒廃のうちの減少に取り組んでいただきたいと思います。

それでは続きまして3つ目になりますけれども、水稻栽培については、一部には機械化、スマート農業、あるいは大規模な省力栽培（乾田直播栽培）など、誰でもどこでもできるような評論家的な話題が大変今盛んに出ておりますが、大変土地に合わせると疑問だらけかなと思っております。機械投資をしているも、AIだ、人工知能だ、ITだ、機械化貧乏になるのは御免でございます。木島平の米はある程度手をかけ、おいしいと言われる米づくりを継続すべきだと私は思っております。

それで1つ目ではありますが、この地域にあった米づくりが大変大事かなと、先ほど来お話しているところでございますけれども、改めて経営（機械・作業・施設・労力）のそれぞれの共同化、協業化、省力化等々で人手確保を考えないか。ために、こういうような農業されている方々、関係者の勉強会とか研修会とか、そういったものでこういったことを推進するような開催誘導をされたらどうかと思うんですがいかがでしょうか。

**議長（勝山 正）**

本山産業課長。

**産業課長（本山 等）**

水稻経営の合理化に向け地域の実情に応じた組織化、集落営農や法人化は必要であると考えております。一方、集落営農による農業、農業機械の共同化については、コスト削減に直接つながりますが、誰がいつ使用するのか、その調整が難しいといったデメリットの部分もございます。

いずれにしても、個人農家の限界を超え、効率的で持続可能な農業経営を実現させるためには、議員ご指摘のとおり、法人化や省力化に向けた勉強会や研修会が必要であると考えますので、今年度開催できるよう準備を進めてまいります。

**議長（勝山 正）**

関達夫議員。

**1番 関 達夫 議員**

再質問でありますけれども、木島平村は農業でありますけれども、それぞれ農業委員会等々からいただいた資料によりますと、経営体数が243、認定農業者が38、基本構想水準到達者ということで15名、これはある程度の収入のある方という捉え方でいいかと思っておりますけれども、おられます。

いずれにしても、機械化貧乏になってはまずいわけでありまして、労力が足りないということが現実かなと思っております。私の地区の西町、中町でも専業にお米の関係でやられている方、4人、5人ほどでございます。大変労力不足等々で苦勞されたりいろいろされているわけでございますけれども、ぜひこのようなことを、兼業化というのも大事なと思ったりします。

先ほど勉強会などを開催予定だということでお話あったんですが、年度中にこのような予定させられるかどうか改めてお聞きしたいと思います。

#### **議長（勝山 正）**

本山産業課長。

#### **産業課長（本山 等）**

年度中の予定ということでございますが、現時点で具体的な日程については定まっておりません。今年度の開催に向けて、これから事務を進めてまいりたいということでございます。

よろしく申し上げます。

#### **議長（勝山 正）**

関達夫議員。

#### **1番 関 達夫 議員**

それでは②に移りますが、村内で、数人で組織を立ち上げた方がおられるようでございますけれども、立ち上げた場合に、創業支援、村にはそれぞれ補助金等々あるわけでございますが、受けられるかどうか。こういったことがもし可となれば、持続可能な稲作経営体を作り上げることに加速するんじゃないかなと思っておりますので、この制度を受けられるかどうかお聞かせいただきたいと思っております。

#### **議長（勝山 正）**

本山産業課長。

#### **産業課長（本山 等）**

村の創業支援制度でございますが、農産加工業などを立ち上げる場合には創業支援の対象にしておりますが、農業そのものについては対象外としているため、創業支援制度を活用することができません。一方、農業の販路拡大や生産性向上のための制度として、商工会が窓口を担当する経済産業省の小規模事業者持続化補助金がございますので、こちらの制度を活用することができますので、ご承知いただければと思います。よろしく申し上げます。

#### **議長（勝山 正）**

関達夫議員。

#### **1番 関 達夫 議員**

③であります。国の助成を見ながら田畑の改良も考えないかというご提案であります。

米の値段が安定したなら、自己負担の改良費も負担できそうだと思うんですけれども、抽象的な質問でございますけれども、妙案をお持ちでしたらお聞かせいただきたいと思っております。

## 議長（勝山 正）

本山産業課長。

## 産業課長（本山 等）

畑作の進行を図るため、畑作農家との意見交換を行いまして、畑の圃場整備モデル候補地を選定しております。今年度、この圃場整備の実現に向け、土地所有者、耕作者の意向調査を行うこととしております。

圃場整備を進めるうえで一番の課題は、整備に要する費用負担を誰がするのかという地元負担の課題がございます。一般的に、土地所有者がこれを負担することになりますが、今回のモデル候補地では、この負担を耕作者に担っていただくことを前提に事業を進めてまいります。そして、今後ですが、このモデルを参考に、畑地の基盤整備の機運を高めてまいりたいと考えております。

よろしく願いいたします。

## 議長（勝山 正）

関達夫議員。

### 1番 関 達夫 議員

ぜひどんどん進めていただきたいんですけども、潜在の需要もあろうかと思っておりますので、希望を取るといいますか、そういったことをもっと広報して該当になられる方がいられるかどうか、ぜひ聞いてみていただくこともまたお考えいただきたいと思うんですが、そんなお考えはいかがでしょうか。いらないと思いませんか。

## 議長（勝山 正）

本山産業課長。

## 産業課長（本山 等）

議員のご提案を踏まえまして、そういったことも考えてまいりたいと思います。

## 議長（勝山 正）

関達夫議員。

### 1番 関 達夫 議員

それでは4番目になりますけれども、土地改良事業補助金は2名以上の団体と会でございますけれども、個々の暗渠工事など対象にならないかどうかをお聞きしたいと思います。

それぞれの田んぼについても、何十年も経ってみますと、それぞれ農業排水とか諸々、老朽化、朽ちたりしてくるわけでありまして。個々の田んぼでございますので、それぞれ組合なり組織のお金を使ってというのなかなかこれも難しいようなところもあります。個々の工事を対象にできないかどうかということをお聞きしたいと思います。いかがですか。

## 議長（勝山 正）

本山産業課長。

## 産業課長（本山 等）

村の土地改良事業補助金の交付対象者でございますが、要綱上は、所有者、耕作者2人以上で構成する団体または担い手農家としております。この担い手農家でございますが、地域計画で定めた10

年後の農業を担う者として設定された農地の所有者または耕作者になります。

受益面積等の要件がございますが、地域計画上に定められていれば、お一人でも補助の対象になりますのでご承知いただければと思います。よろしく申し上げます。

## 議長（勝山 正）

関達夫議員。

## 2. 国の交付税と村民生活の調和について

### 1番 関 達夫 議員

それでは、次の質問に移らせていただきたいと思っております。

2番目になりますが、国の交付税と村民生活の調和についてということでお聞きしたいと思っております。

昨年でありますけれども、大変問題といたしますか議論に挙がりましたが、年収の壁問題が盛んに言われたところ、議会の一般質問でも出たことがありますけれども、村民税等々で7,000万円ほど減収になるのではというようなことの話でございました。

令和7年度の村の計画であります。地方消費税交付金は1億500万円を予定されております。うち社会保障施設経費に充当予定分は6,000万円を予定されている。保育所管理運営事業に1,800万円、介護保険事業に1,700万円などあります。

新聞には、消費税の減税廃止の世論調査等々の数字が出ております。これに賛成というようなことが約7割ほどおられるということでもありますけれども、くわえて、食品に関わる軽減税率8%を0%にした場合、5兆円ほど減になるということもニュースになっております。

国の台所事情は庶民にはわかりませんが、社会保障の財源としている消費税であります。変更になったときの子や孫の社会保障制度に関わる経費負担はどんなふうになってくるかということが心配でございます。

1つ目ではありますが、仮に全体の消費税、軽減も含めてですが、消費税が5%に減少した場合、村はいくらほど消費税交付金が減少するか、試算等されておられるかどうかお聞きしたいと思っております。

## 議長（勝山 正）

湯本総務課長。

### 総務課長（湯本寿男）

消費税5%に減少した場合、消費税交付金は試算しているかというご質問でございますけれども、特に現状、試算をしておりませんが、現在の税率10%の内訳を申しますと、国税としての消費税が7.8%、都道府県税としての地方消費税が2.2%であります。この地方消費税2.2%のうち1.2%が年金、医療、介護、社会保障、少子化対策に当てられています。

この地方消費税交付金は、地方消費税を都道府県間で精算した後、その2分の1の相当額が交付されていますので、村では約1億円程度の収入となっております。

ご質問の、仮に消費税が5%に減少した場合、地方消費税交付金はどうなるかということでもありますけれども、国税と地方税の割合ですとか地方消費税の市町村への交付割合に変わりがないと仮定をしますと、国の消費動向がほぼ変わらないものとして見込んだ場合、税率が2分の1となりますので、地方消費税交付金の額も単純に2分の1程度になるということが想定をされます。

消費税が減税された場合の国税と地方税の割合や、地方消費税交付金の交付割合などについては、現段階で示されているものではありませんので、ご承知おきください。

### 1番 関 達夫 議員

仮の話ですので、そういうことになるかどうかわかりませんが、7月に向けて大変にこのよ

うなニュースが盛んに出てきているところでもあります。

ちょっと新聞等々に出ておりますけれども、消費税全体が23兆から24兆円ほど。それで23年度、自治体へは8兆5,000億円ほど配分したということでもあります。また、長野県には1,609億円を配分したという記事も出ております。大変に大きい財源でございます。消費税が良い悪いはそれぞれの考えでしょうけれども、税と社会保障の一本化というようなことから申し上げますと、どういふもんかなと思います。

それで、次の質問をさせてもらいますけれども、村では普通交付税17億円を頂いているわけですが、村政の運営には欠かせないものであります。国の財政状況を現在どのお考えになられていますか。あるいは、プライマリープライマリーバランスをどんなふうに見られておりますか。村長ちょっとお考えがありましたら教えてください。

## 議長（勝山 正）

日碁村長。

## 村長（日碁正博）

村の基礎的な財政収支の歳入は33億6,819万5千円、歳出が30億7,544万7千円となりまして、2億9,274万8千円の黒字となっているということではありますが、歳入の内訳は、今ご指摘のとおり、その多くが地方交付税に頼っております。国の基礎的な財政収支を見た場合は大幅な赤字であるため、今後の国の地方財政計画の見込みによっては反転する可能性も含まれているとは思っております。ただし、地方交付税の維持、増額というのは、全国の自治体にはほぼ共通する課題であります。地方財源の確保は町村会を始め、自治体で構成する多くの団体の最終要望事項となっております。

繰り返しになりますが、村の財政運営に当たっては、国・県補助金、補助事業の活用、自主財源の確保、効果的な事業執行、徹底した経費の削減に努めていかなければならないと考えております。

## 議長（勝山 正）

関達夫議員。

### 1番 関 達夫 議員

村の村県民税、村税で約4億円ほどの通知をされているわけでございます。これから高齢化等々どんなふうになるかわかりませんが、村が黒字を出すっていうことを、そりゃ赤字を出すよりはよろしいわけではありますが、ぜひぜひ健全財政を堅持していただけるよう、また、交付税をしっかりと確保できるようにお願いしたいかなと思います。

## 3. ファームスの再整備計画について

### 1番 関 達夫 議員

それでは、続きましての質問に移らせていただきますが、ファームスの再整備についてということでお聞きします。

ファームス木島平の再整備計画に、多くの方の意見が寄せられたところでもあります。主に、多額なお金を投じる村の財政状況の悪化懸念であるかというふうに思います。村民の注目度は高いんではないかということでもあります。

今後、村はインフラ整備あるいは堆肥センター、馬曲温泉、寒川の改修工事等々、今後も多額な支出を見込んでいかなきゃいけないわけですし、見込まれております。また、農業振興公社あるいは村の社会福祉協議会で、自己の基本財政を取り崩して運営するなどされている経営内容となっております。当然、村からの支援もあるわけですが、この先、村の財政はますます厳しくなるんだなと私は思います。高齢化、少子化、人口減により、社会保険料の負担などますます重くなっ

てくるわけであります。持続可能な生活こそ、ここに住む住民の願いであります。

ファームスの再整備計画に対する意見をどう受け止められ、今後どうするかということで、昨日からこの問題についていろいろ聞かれて、あるいは発言されているわけでございますけれども、今日も新聞の記事一面に出ておりましたけれども、このことについて今後どうするかお伺いしたいと思いません。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

議員の言われるとおり、この件につきましては、昨日から再三お答えしております。

改めて申し上げますが、会場でのご意見やアンケート、それから意見募集に寄せられたご意見は様々であります。道の駅や再整備計画への反対意見から、前向きに新たな機能を提案されたものまで幅広くいただきました。特に過去の経過も踏まえて道の駅に反対される方、再整備計画に反対される方、機能や事業費等から計画への不安や疑問といったものが多かったかと思っております。

このため、再整備計画をこのまま進めるのではなく、スケジュールを含め計画内容から見直すことにしました。今後、見直しの内容等を検討し、また、議会、村民の皆様と情報を共有しながら進めていきたいと考えております。

**議長（勝山 正）**

関達夫議員。

**1番 関 達夫 議員**

再質問という形でお願いしたいと思うんですけども、本日も村長の発言として「親子連れが憩えて、農家所得向上につながる場」というふうな表現で書かれておりますけども、今検討中ということでございますけれども、この辺の内容について、もうちょっと詳しく教えていただければと思うんですけど、いかがでしょうか。

**議長（勝山 正）**

日墓村長。

**村長（日墓正博）**

多くの道の駅でも、議員もご存じと思いますが、道の駅の本来の機能に、農産物の直売とか販売というのは入っていないわけではあります、やはりそれぞれの地域の入口として、中核的な大きな役割を果たしているのはやはりそういう施設だろうと思います。それは一面、また農家所得の向上にもつながると思っております。村とすれば、やはり村をPR、そしてまた、村の農産物を始めとした特産品のPRの場所としても大きな役目を果たす、そういうものにしていければと考えていますのでよろしくお願ひします。

**議長（勝山 正）**

関達夫議員。

**1番 関 達夫 議員**

2番目になりますけれども、多額な支出になるわけでありまして、村民の暮らしやすさとどちらが優先されるべきか。このことが村民の暮らしに直結しているかどうか、いろいろ議論があるところで

ございますけれども。村民の暮らしに直結しているかどうか、お考えをお聞きしたいと思います。

**議長（勝山 正）**

日臺村長。

**村長（日臺正博）**

冒頭にもありました、村で抱えている様々なインフラの維持管理、そしてまた公社とか社協とか、そういう村の中の組織の体制の維持、そういう面で見れば、村の財政負担これから大変じゃないかというようなご心配をいただいているわけでありますから、一方では、やはり振興策も必要だろうと思います。

このご質問は、多額な投資支出と村民の暮らしのどちらが優先されるべきかというようなご質問がありますが、逆に言えば、村民の暮らしやすさのための投資でなければならないと考えています。その投資は、財政的なことも当然考えを伴わなければならないわけでありますが、今回、再整備で示した機能は、村の特産品販売によるブランド化、農家所得の向上のほか、村の特産物を活用した飲食スペース、子供の遊び場、日用品や惣菜の販売など、一方では、やはり村民の暮らしにつながるものとして考えております。

**議長（勝山 正）**

以上で、関達夫議員の質問を終わりにします。

(終了 午前10時43分)

**議長（勝山 正）**

ここで暫時休憩とします。

再開は、午前10時55分とします。

(休憩 午前10時43分)